

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもケアセンターほっと大田		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 6日		2025年 1月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年 1月 23日		2025年 1月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	1
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・年齢、障害種別で断ることなく受け入れを行っている。	・3号研修を受講してもらい、医療的ケアを行える介護職員を増やしている。 ・看護師以外でも医療的ケアのあるお子さんを担当してもらい、医療的ケアがない重心のお子さんを担当してもらい、積極的に関わりを持ってもらっている。	・非常勤介護職の方が、新しく入職した介護職の方にお子さんの説明を行う。説明できるくらい理解を深めることで、お子さん一人一人をより詳しく知ることへと繋がり、支援内容の幅が広がっていく。 ・支援員の意識向上のための情報共有や知識を深めるための勉強会の機会を増やしていきたい。
2	・トイレや着替えを同性介護で行っている(「恥ずかしさ」を理解するため)	・未就学児のうちから、同性での介護を行っている。 ・異性に見られると恥ずかしい。ということ、日々の関りの中から少しずつ学んでもらっている。 ・支援者全員が同じ方針を持つため、入職時にしっかりと説明を行っている。	・引き続き、同性介護を基本として、人との関り方や、社会のルールなどを発達に合わせて少しずつ習得できるように努めていく。
3	・どのような医療的ケアでも受け入れを行っている。	・初めてのことに対しては、内部での勉強会や外部に委託して医療機器類を学び、安全に利用者の受け入れができるように準備を行っている。 ・看護師以外でも医療的ケアのあるお子さんを担当してもらい、お子さんにとって安心できる人を増やしている。	・外部の勉強会にも積極的に参加し、新しい医療の情報を入手し事業所内、法人内で共有する。 ・自身の経験や知識だけでなく、外部の方の意見を伺うなど常に向上心を持った関わりを行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・重症心身障害児や医療的ケア児を知られていない 思っていたより重症である、医療的ケアがあっても動くことができるなど、イメージと違った印象を持たれる方が多い。	・地域への情報発信不足 地域への認識度が低く、認知されていない。イベントなど地域の方々と活動することが少なく、知ってもらう機会に参加できていない。	・地域への発信 地域の活動に参加する。当事業所のイベントに招待するなど、建物内にもっていただき知ってもらう。開放している地域交流室の利用者からコミュニティを広げる。 ・人員確保 実習を受け入れている大学と協力し、支援者を増員する。
2	・発信力が弱い 活動の様子や、活動内で行っていることを視覚的に発信することが欠けている。	・人手不足 児童発達支援と複数事業を行っているため、非常勤支援者は両方を担っている。複数の学校からのお子さんの受け入れを行っているため、送迎に人手が必要。	・人員確保 情報発信など事業所を知ってもらうための取り組みを行う時間の確保。直接支援だけでなく、間接的な支援にも力を注げるような人員確保を行う。
3	・長期休暇時の人員の不足 放課後等デイサービスと複数事業を行っているため、長期休暇中はお子さんの受け入れ増加に対して、支援員の増員が難しい。	・働くママの支援が不十分 自身のお子さんも長期休暇に入るため、お休みとなる。	・人員確保 幅広い年齢層の支援者の確保を行う。